



申
33
号



次世代 EB 装置の開発に向けた 6月13日 団体交渉を行う その1 乗務員室の新たなカメラの設置に関する申し入れ

本部・本社間の団体交渉により、

「次世代 EB 装置」に関する詳細を示させ、システムの全体像が明らかに

次世代 EB 装置とは

次世代 EB 装置は ①検知 ②通知 ③動作 の 3 つの機能で構成されるシステムの総称。

その中の「②通知」機能を『乗務員状況把握システム』と呼称し、カメラを使用し、遠隔でリアルタイムに把握できる機能を付加していくもの。



システムの全体像

① 検知

体調検知	血圧や体温、脈拍などをモニタリングし、体調不良の予兆を把握していく。非接触や腕時計タイプを検討しており、現在メーカーで開発中。
眠気検知	視線をモニタリングするタイプや耳に装着するタイプなどがある。すでにバス会社などで採用されている。
機器の異常操作検知	体調不良時に発生する「停止位置修正後にレバーサ後位置で力行 2 ノッチ」など、異常な操作を機器側で検知し、データ通信により通知する。

② 通知

車両などで検知した異常をデータ通信で自区所へ飛ばし、カメラ（今回試行）を使用して体調の確認等を行う。

③ 動作

将来的に遠隔で車両を停止させたり、操作したりを行う。

本施行後の運用イメージ

① 体調不良や誤操作をシステムが検知（検知）

② 自区所へ通知が飛ぶ（通知）

⇒ 自区所の管理者が、カメラを通して当該乗務員の体調を確認

※ 今回、試行するのはここで使用するカメラ

⇒ 管理者が列車の抑止等を判断

将来的には

③ 遠隔で車両を停止させる（動作）

今回試行するカメラは？

- 上記の次世代 EB 装置の中の「②通知」で使用するカメラの通信状態、録画状態を確認する。
- 撮影中のトンネル、夜間、西日の影響などの撮影状態の確認を目的に、東西方向を走行する中央総武緩行線で試行することとした。

■様々な状況下で緊張しながら乗務をしている。脈拍や体温など、一律に「体調不良」とはならない。

■本施行後の想定として、通知を自区所に飛ばす（配信する）のはなぜか。

●運転士の業務の特殊性を踏まえて“しきい値”を決定していく必要があると考えている。

●指令ではなく、あえて自区所に通知することを考えている。普段から関わりのある管理者が判断することで、個々人の些細な体調の変化に気付けることを期待している。

その2へ続く